

17 広島県における医史料の蒐集と保存

千田 武志

広島県の近代史を研究対象としており、同県の医史料の蒐集と保存状況とそこにおける問題点を分析し、今後の方角性を考えることにする。

現在、広島県には、医史料の蒐集、保存施設として、広島県立公文書館や市町村の文書館、図書館と広島大学医学部医学資料館等がある。そのうち文書館等には、おもに県史や市町村史編集にさいして蒐集された史料が保存されているが、医史料となると、県史やほとんどの市町村史が近世の医学史やそれになつた医師の研究にとどまっていることもあって、きわめて少ない。一方、医学資料館は医史料専門館として実物史料の蒐集にすぐれているものの、文書は量的にも質的にもとぼしいといわざるをえない。

広島県立文書館は、『広島県史』の編集にさいし蒐集した史料とスタッフを引き継いで開館した。このことから考えると、内容の充実した医史料館は、『広島県医療史(仮称)』

編集への取り組みがなされることによって、実現性が高まるものと思われる。こうして蒐集された医史料とスタッフの受け入れ先としては、医学資料館と県立文書館が考えられるが、医史料専門の博物館・文書館としての発展が期待できる、赤レンガ建造物を有する前者の方がより適しているように思われる。大学に集められた医史料がスタッフにより整理され、研究用としてはもちろん、学生や市民の教育用として広く利用できる日が一日も早く訪れることを願うしだいである。

以上、広島県に例をとり、医史料の蒐集・保存状況とその問題点の解決策について言及した。ここに記した医史料の蒐集と保存は、公的機関をまきこんだ総合的な医史の編集によって促進されるという主張は、広島県だけでなく全国に共通するように思われる。

18

土屋 重朗

医史料の収集、保管管理については、その必要性は充分に承知しているが、現在のところ個人の収集・管理に任せ、静岡県特に「静岡県医史学懇話会」としては何等手を